

令和4年度 英語研修4（オンサイト）報告書

【開催日】令和4年9月8日（木）

【時間】10:00～17:00（オンライン参加は10:00～12:00）

【場所】東海国立大学機構 名古屋大学 VBL セミナー室

【講師】梅村綾子（名古屋大学博物館 特任助教）

【参加対象者】大学の技術職員、技術支援員（パート、派遣等含む）

【定員】オンライン10名、オンサイト8名

【目的】大学や研究機関でのグローバル化に伴い、技術職員が留学生や海外研究者の対応を行なう機会が増している。本研修では、研究支援の現場で必要とされる専門的な技術英語を習得すべく、2020年からオンラインで実施してきた技術英語研修をオンサイトで実施した。パイブリッド開催のスピーキングの実戦練習に加え、オンサイト参加者対象に名古屋大学博物館ツアーを英語で開催し、リアルタイムのコミュニケーションを学ぶ。

【プログラム】

10:00～10:05 開会

10:05～10:15 講師・参加者紹介

10:15～11:00 グループワーク（オンライン/オンサイト）

11:00～12:30 留学生インタビュー

12:30～13:30 お昼休憩

14:00～15:00 博物館ツアー

15:00～16:50 ディスカッション

16:50～17:00 閉会

【共催】東海国立大学機構統括技術センター、大学連携研究設備ネットワーク

【参加者】オンライン 3名 オンサイト 7名

【報告】

令和4年9月8日（木）名古屋大学にて、東海国立大学機構統括技術センターと大学連携研究設備ネットワークの共催による技術英語研修を実施した。オンサイト7名、オンライン3名、計10名の技術職員が参加し、研究支援業務で必要とされる技術英語の習得を目的に、主にスピーキングとリスニングを行った。

午前中のグループワークでは、各参加者の所属・担当業務・今回の研修での目標など自己紹介を行い、次にアイスブレイクとして2グループに分かれて技術英語をテーマにゲームを行い、英語によるコミュニケーションの練習をした。場の雰囲気が和んできたところで、カナダからの留学生 Victoria Joseph さん（カナダの大学で機械工学を専攻し、航空機やロケットエンジンに興味をもち、今秋から名古屋大学大学院 工学研究科機械システム工学専攻の修士課程へ進学する研究者）によるジェットエンジンについてのプレゼンテーションが行われ、リスニングの実践として良い機会となった。発表後の質疑応答も行い、リアルな英語でのやりとりを実践することができた。

午後は、名古屋大学博物館に移動し、展示物を対象にワークショップを行い、グループに分かれて英語で討論・相談を行い、最終的には参加者それぞれが自身の考えについて英語で発表を行なった。

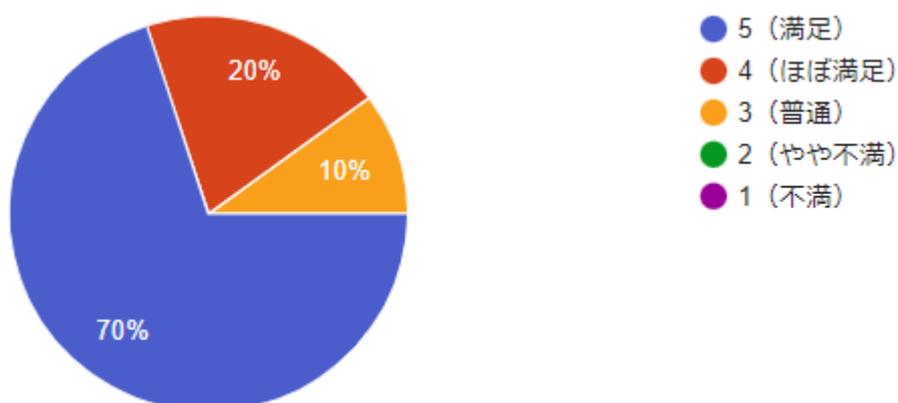
今回の経験を活かし、技術職員のグローバルな活躍がより一層期待される。

【当日の様子】



【アンケート結果】 回答数 10

研修の満足度



良かったプログラム



研修の良かった点

・ゲームに集中したら、思いついた英語を自然に口から出すことが出来ました。なかなか英語を喋るとい難題が少しずつ改善できると思いました。

・まずは久々の対面形式ということで、アイスブレイクのゲームがとても良かったです。全員の顔を見渡せる状態で、いつ発言しようか、誰が発言しそうか、「場の空気を読む」ということを久々に楽しめました。また、今回は同時にオンライン参加の方もいたので、Zoom 画面も見ながら発言を促したり、今までにない配慮があったように感じます。オンライン研修やオンライン会議が広まる中で、新たに必要とされるスキルなのかもしれませんね。とても良い経験になりました。

「発言のタイミング」という点では留学生インタビューもとても良い経験となりました。ネイティブの方の早い英語に追いつきながら、話の切れ目ですかさず質問したりコメントしたり

するのはとても難しかったです。本学の留学生はアジア系がほとんどなので、カナダの英語を聞いたのはとても貴重な経験でした。ありがとうございました。

午後の dialogue をテーマとした博物館ツアーもとても楽しく取り組みました。自分の興味を図にする、言語化するのには、日本語でも大変な作業です。それを英語で互いに発表し、共感したり、新しい発見に驚いたりできたというのは、今後留学生との交流でも役に立つ経験になったと思います。

オンサイトとオンラインのハイブリットという複雑な形式にも関わらず、目立ったトラブルもなくスムーズに研修が進行したのは、会場のセッティングをしてくださった西村さんの貢献が大きいです。素晴らしい研修を受けさせていただき、本当にありがとうございました。

・久しぶりの対面でのコミュニケーションが実践できたことが良かったです。オンラインとは違った空気感があり、より留学生との対応に近い雰囲気での研修ができたと思います。

・対面、ハイブリットの研修を実施くださったこと、とても感謝しています。改めて対面でのコミュニケーションの良さを実感することができました。Victoria さんの発表は、専門ではないので内容は少し難しかったです。参加者への気遣いや興味・質問を引き出そうという姿勢が感じられてとても勉強になりました。

午後の SECI モデルについては、英語の勉強だけでなく皆さんの多様な考え・好みを知ることができ、「多様性の理解」という点でも大きな気づきがありました。どうもありがとうございました。

・他の人と交流することで、自分のできること、できないことが明確になりました。

・対面でコミュニケーションが取れて良かった。皆さんがたくさん英語で発言される姿を見て、刺激をいただくことができ、とても勉強になった。博物館ツアーでのアクティビティは、グループワークもあり、協力しながらできたのが良かったです。

・スピーキングへの苦手意識が強く、とても緊張していましたが、アイスブレイクでだいぶ緊張感がほぐれました。また、今回はオンサイトで参加できたため、休憩時間など他大学の技術員さんと交流できたことも良かったです。"

・ハイブリット研修会は今回初めてだったのでどのような感じになるのか体験できたのは良かったと思います。

・初対面の方とのオンラインかつ英語でのコミュニケーションの難しさを体感できたこと、難しいながらも楽しんでコミュニケーションできたこと、の2点です。

・Help ゲームだけの参加でしたが、楽しかったです！

今回の研修はご自身の業務にどのように役立ちそうですか？

・機器の講習会を担当していますので、英語の対応が出来るために英会話を勉強しています。留学生に伝えたいことを伝えるように、少し進歩しました。

・技術英語研修に参加するたび、講師や他の参加者の方々から良い刺激をいただいています。この研修に参加することで「もっと英語能力を伸ばすぞ」という前向きな気持ちになります。

特に今回は対面形式だったので、実際の業務の中で留学生と対話する状況に近く、良いイメージトレーニングにもなりました。これからも技術英語のトレーニングを頑張ります。

- ・留学生との対応の際に、相手のことをよく聞いて理解しようとする努力、伝えようとする努力が必要であることを再確認しました。実際の対応の際として、とても役に立つと思います。
- ・わからないながらも Victoria さんに質問できたことは、自信につながりました。今後も質問の大小を気にせず積極的に質問・声掛けしていけたらと思います。
- ・不明点があれば相手にしっかりと確認する、などコミュニケーションに役立ちそうです。
- ・英語の論文や説明書を読んだりする等、英語は時々必要になるので役立てたいと思っています。
- ・現在、英語で対応する業務は日常的には行なっておらず、いつか来るその日に備えて研修を受講しています。そのための準備として役立つと思います。
- ・英語による質問への応答や説明に役立てられたらと思います。
- ・現時点では英会話能力の低さのために、相手の英語を一度ですべて正確に理解することはほぼできませんし、一度の英語だけで相手に正確に説明することがほぼできません。自分に理解できたわずかなことから相手が言いたいこと全体を推測し、繰り返し質問して推測が正しかったか確認しています。あるいは逆に、違った言い回しにしたり補足したり何度も説明を加えて、相手に自分の英語を理解してもらっています。これは、help ゲームでの状況とまったく同じと思っています。help ゲームのときは状況がある程度客観的にみることができましたが、そのときの客観的な視点を今後の英語でのやり取りのさなかにも持ち続けることができれば、良いコミュニケーションを作っていく上でとても有益だと思っています。
- ・職場でも英語研修を行っているので、取り入れてやってみたいと思います。

今回の研修の感想・改善点や、今後の技術英語研修に期待することなど

- ・とてもよい形で英語ワークショップを行っていますので、これからも参加したいです。
- ・今後も技術英語研修が開催されることを強く希望します。また、コロナの状況次第ではありますが、対面研修が再び開催されることを期待しています。今後の研修で希望する内容としては、英語での会話の中で発言のタイミングをつかむトレーニングを挙げたいと思います。たしか以前「テンポトレーニング」という名前でアイスブレイクとしてやった記憶があります。オンライン研修ではできないトレーニングだと思いますが、もし次に対面研修が開催されましたらその時は是非ご検討ください。よろしくお願い致します。
- ・最初はどうしても緊張しますが、アイスブレイクで少しほぐれたと思います。研修時間に限りがあるので難しいかと思いますが、もう少し長い時間かけてできたら良かったなと思いました。留学生インタビューは、それだけで一つの研修にしてもいいくらいのボリュームで、こういう研修もあっていいなと思いました。博物館でのワークも英語だけでなくいろいろな知識に触れることができ良かったですが、やはりこちらも、もう少し時間があればと思いました。
- ・様々な業務の技術職員と一緒に切磋琢磨できる機会として、今後も技術英語研修に期待して

います。

・ゲームといえど、質問を考えたり受け答えをしたりと、技術英語の練習になりました。このアイスブレイクは楽しかったので、ぜひまた実施してほしいです。

・今回のように時々、対面の研修があると嬉しいです。スピーキングの機会が欲しいと思っていたので、今回参加させていただき良かったです。久しぶりに梅村先生の研修に参加でき、とても充実していました。

・研修の内容自体はとても満足しています。ただ、留学生の研究プレゼンで全く質問などができなかったのがやや心残りで、プレゼンに対する質疑応答の奥義など伝授していただけたらうれしいです。(全く歯が立たないこともあるし、質問文自体は作れても回答を理解できる自信がなくて質問できないこともあります)

・会場で参加している方とのコミュニケーションは難しいと思いました。自分の通信環境が悪いこともあるかもしれませんが、ところどころ聞きづらいところがあったりしました。またどこで発言していいのかという戸惑いもありました。これらは何回かハイブリッド研修が行われる中で改善していくことだと思いますのでまた開催していただけることを期待しています。現地参加できるような旅費の補助があればなお嬉しいところです。

・"Help ゲームですが、オンライン参加のため相手の顔が見えず、どのチームの(誰の)発言かわからず、ゲームの回答なのか、回答へのヒントなのか、理解できない場面がありました。そこで、もし今後、オンライン参加者も含めて Help ゲームをするときは、例えば発言の前に「(回答チームの誰々ですが)答えは〇〇ですか?」「(出題チームの誰々ですが) ヒントは△△です」等、「答えは」とか「ヒントは」とか必ず言うようにルール化するとわかりやすくなると思います。しかし、Help ゲームは言葉で説明する練習や相手の発言を理解する練習として、面白くてしかも役立つゲームだと思います。今後も、面白いけど役立つような「ワーク」が研修に含まれているといいなと思います。"

・初のハイブリッド開催ということでしたが、会場の様子が伝わり良かったですし、またその場にいないのが少し悔やまれました。また機会がありましたらオンサイトにも参加したいです。